

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：24402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K12936

研究課題名（和文）地中探査による豊臣期大坂城本丸地区の解明

研究課題名（英文）Investigation in the central area (Hon-maru) of Osaka Castle at the Toyotomi period by sub-surface prospecting

研究代表者

仁木 宏 (NIKI, Hiroshi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90222182

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：豊臣期大坂城の天守台の周囲と山里曲輪において、スウェーデン式サウンディング調査（ボーリング調査）を実施した。その結果、中井家所蔵「豊臣期大坂城本丸図」に描かれた天守台や山里曲輪・芦田曲輪間の段差の正確な位置、石垣の角度・高さなどを解明した。本研究は、今後の豊臣期大坂城研究進展のための重要な成果であるとともに、発掘調査が困難な場所においても、地中の状況を把握する新たな研究方法を開発したことになる。

研究成果の概要（英文）：Swedish weight sounding test (penetration test) was carried out in the surrounding area of the elevated ground for main tower called "Tenshu-dai", and the northern area called "Yamazato-guruwa" and "Ashida-guruwa" at the Toyotomi period. The results of the investigation precisely clarified the location of the Tenshu-dai, the stone wall step between "Yamazato-guruwa" and "Ashida-guruwa", and the heights and angles of the stone walls which are drawn in the castle view at the Toyotomi period of "Toyotomi-ki Osaka-jo Honmaru-zu" in the possession of Nakai Family. The result by this investigation serves as one of the baseline for the research advance on Osaka Castle at the Toyotomi period, and made a contribution to the new survey method on the sub-surface situation at the area where excavation activities are difficult.

研究分野：日本中世史

キーワード：大坂城 豊臣秀吉 サウンディング調査

1. 研究開始当初の背景

羽柴(豊臣)秀吉は、天正11年(1583)上町台地北端部に新たな城郭の建設をはじめた。3次にわたる建設期間をへて、慶長4年(1599)、大坂城は完成した。城郭建設に際しては、高い石垣が積み上げられ、大量の土石が投入されて広大な平面がかたちづくられるなど、地形は大きく改変された。

しかし、大坂城を落城させて豊臣氏を滅ぼした(元和元年(1615))徳川氏は、豊臣期大坂城全体を地中にうずめ、その上により巨大な城郭を築いた(元和5年以降)。これが現在、地上に残る大阪城の基本的な構造である。

天守台、本丸を中心とする、現在の大阪城中心域の地下に、豊臣期の石垣遺構が良好な状態で遺存していることは、1959年以降の発掘調査で確認されてきた。既往の地中ボーリング調査によっても石垣の存在は確認されている。

しかし、発掘調査が行われたのは豊臣期本丸地区のごく一部である。既存のボーリング調査も、電気や水道などの管を埋めるための事前調査にともなうものがほとんどで、重要地点の調査が意識的に行われてきたわけではない。

現在、大阪城中心部は、特別史跡「大坂城跡」となっている。これは徳川期の大坂城を念頭に置いているため、基本的に発掘調査や、地下の遺構を傷つけるボーリング調査などは許可されなくなっている。

2. 研究の目的

本研究においては、天守台の周囲や本丸広場においてスウェーデン式サウンディング試験をおこない、豊臣期の石垣ならびに地表面などを検出することを目的とした。

豊臣期の天守台・本丸の絵図(中井家所蔵「豊臣時代大坂城本丸図」)は、かなり正確な測量図で、平面プランのみならず、石垣などの高さも記されている。この図にもとづいて従来は豊臣期の本丸とその周辺の復元研

究がなされてきた。しかし、400年以上前の史料であり、信憑性、正確さに課題があることは否めない。

そこで、この図をもとにして調査を進める一方、調査成果をもとに、この図の信憑性を確かめ、実際の石垣の位置や高さを解明することとした。

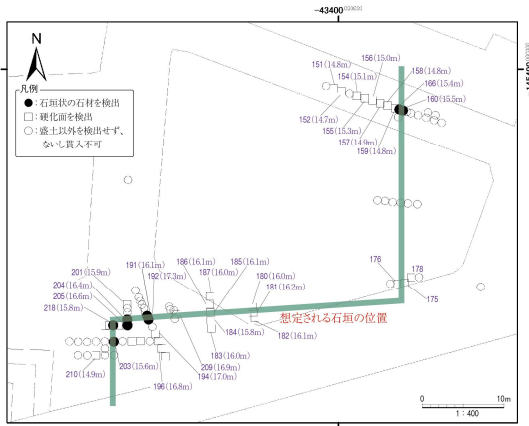
3. 研究の方法

平成27年度においては、山里丸において、スウェーデン式サウンディング試験を実施し、地中構造の確認を行った。調査は、9月7、8、10、11日の4日間実施し、中央開発株式会社の調査員2名が作業にあたった。研究代表者、ならびに研究分担者数名が監督にあたった。ついで、大阪城天守閣北側において、同上試験を実施し、地中構造の確認を行った。調査は、3月8~10日の3日間実施し、同社の調査員2名が作業にあたった。監督も同上。

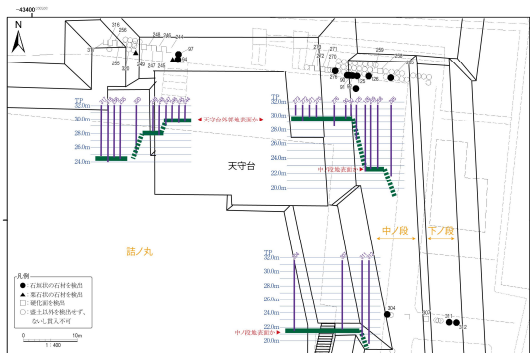
平成28年度においては、調査は、8月1~3日の3日間(山里丸、天守閣北側・東側)、9月23~24日の2日間(天守閣の北側・東側)(合計5日間)実施し、中央開発株式会社の調査員2名が作業にあたった。研究代表者、ならびに研究分担者数名が監督にあたった。

4. 研究成果

豊臣期山里丸の北西隅付近の東西方向と南北方向の石垣の位置をおおよそ確定するにいたった。



また、豊臣期天守閣の北東隅付近、ならびに北西隅付近の石垣・裏込め、石垣の落ち込みなどの位置をおおよそ確定するにいたった。これによって「豊臣時代大坂城本丸図」の正確さを再確認するとともに、微修正が必要であることが明らかになった。



平成 28 年 12 月 17 日、公益財団法人大阪市博物館協会・公立大学法人大阪市立大学包括連携協定企画；シンポジウム「『真田丸』の歴史学」を開催し、一連の研究成果を公開した。年度末には、研究成果をまとめた報告書を刊行し、関係者、関係機関に配布し、学術的な研究成果を広く公開した。

5．主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

(1)仁木 宏、権力論・都市論から見る大坂、

ヒストリア、査読有、260 巻、2016、61-70

〔学会発表〕(計 4 件)

(1)岸本直文、豊臣大坂城はどこまでわかっているか、シンポジウム「真田丸」の歴史学、2016 年 12 月 17 日、大阪歴史博物館(大阪府大阪市)

(2)仁木 宏、豊臣大坂 と真田信繁(幸村)シンポジウム「真田丸」の歴史学、2016 年 12 月 17 日、大阪歴史博物館(大阪府大阪市)

(3)三田村宗樹、ボーリングデータからみる大坂城本丸地区における地盤状況、日本応用地質学会関西支部平成 28 年度 soukai・研究発表会、2016 年 05 月 20 日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府大阪市)

(4)岸本直文、近世城郭最高峰の大坂城を実現させた石垣普請、瀬戸内小豆島石のシンポジウム、2015 年 11 月 8 日、福田体育館(香川県小豆島町)

〔図書〕(計 2 件)

(1)仁木 宏、大阪市立大学豊臣期大坂研究会、特別史跡大坂城跡サウンディング調査報告書、2017、177

(2)仁木 宏、大澤研一、松尾信裕監修、和泉書院、秀吉と大坂 - 城と城下町、2015、311

6．研究組織

(1)研究代表者

仁木 宏 (NIKI, Hiroshi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：90222182

(2)研究分担者

岸本 直文 (KISHIMOTO, Naohumi)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80234219

三田村 宗樹(MITAMURA, Muneki)
大阪市立大学・大学院理学研究科・教授
研究者番号：00183632

山口 寛(YAMAGUCHI, Satoru)
大阪市立大学・大学院理学研究科・教授
研究者番号：70191228